

2024年度退職教員



いせ としひこ  
**伊勢 俊彦** 教授  
人間研究学域  
哲学・倫理学専攻  
1989年4月着任



ふじわら たかかず  
**藤原 享和** 教授  
日本文学研究学域  
日本文学専攻  
2014年4月着任



や の けんいち  
**矢野 健一** 教授  
日本史研究学域  
考古学・文化遺産専攻  
2002年4月着任

訃報

たかしま きよし  
●**名誉教授 高島 清** 先生 2023年6月26日逝去  
〈文学部の在職期間:1966年～2009年〉

おかの ひでき  
●**名誉教授 岡田 英樹** 先生 2023年10月18日逝去  
〈文学部の在職期間:1976年～2010年〉

いらい たたくま  
●**名誉教授 岩井 忠熊** 先生 2023年11月4日逝去  
〈文学部の在職期間:1951年～1988年〉

まるやま みちよ  
●**名誉教授 丸山 美知代** 先生 2024年5月4日逝去  
〈文学部の在職期間:1987年～2021年〉

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。現在では約19,000名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生の皆様や文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。入会にあたっては、終身会費として1万円の会費の納入をお願いしております。趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展、ならびに、学生・院生の支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

文学部校友会入会手続きについて

2006年度以前にご卒業の方が新規にご入会いただく場合は、文学部校友会事務局までご連絡いただくか、文学部校友会HPの入会申込フォーム(下記URL参照)よりお申込みください。

▶立命館大学文学部校友会事務局

☎ 075-465-8187(文学部事務室内)

✉ lalumni@st.ritsume.ac.jp

🌐 <https://secure.ritsume.ac.jp/forms/ltalumni/entry/>



原稿募集

文学部校友会報LETTERS(年一回発行)では「文学部校友の『いま』」、「伝言板(同窓会案内)」などの原稿を募集しています。詳しくは文学部校友会事務局までお問い合わせください。

同窓会への支援

下記に該当する同窓会活動に関する経費を補助します。

クラス・ゼミ等同窓会

正課の小集団科目に関する同窓会  
※正課外の同窓会においては  
常任幹事会が承認した同窓会も対象

専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が  
参加するもの

[補助内容] 同窓会開催、案内状送付、会報や記念誌の印刷、同窓会HP作成など、同窓会活動に関わる経費。

★同窓会開催をご検討されている方は、事前に文学部校友会事務局までご相談ください。

申請団体	補助の根拠	補助金支給上限額
クラス・ゼミ同窓会	①文学部校友会会員が3名以上参加するもの。 ②事前申請書に担当教員の確認印、教員に確認が取れない場合は文学部校友会事務局へ相談。	10,000円(実費) ※領収書必須
専攻・プログラム同窓会	①文学部校友会会員が3名以上参加するもの。 ②同窓会規約。規約がない場合は文学部校友会事務局へ相談。	100,000円(実費) ※領収書必須

申請方法など、詳細はこちらをご参照ください。

▶同窓会活動・補助-申請書類・流れ

🌐 <http://www.ritsume.ac.jp/ltalumni/dousoukai/workflow.html/>



同窓会活動補助費の事前申請がWebでできるようになりました!

▶活動補助費申請フォーム

🌐 <https://secure.ritsume.ac.jp/forms/ltalumni/dousoukai/>



デジタル会員証の運用開始!

2022年3月より、デジタル会員証を導入いたしました。

※本サービスは文学部校友会が発足した2007年度以降の卒業生、または終身会費をお支払いいただいた「文学部校友のみ」に限定されております。なお、特設ページなどにアクセスするものではなく、「校友会員」であると表示されるだけのものになります。

[ログイン方法] 会員証をご提示いただく際は、文学部校友会HPで「会員証」ボタンをクリックするか、ブラウザで下記URLを入力し、ログインしてください。

🌐 <https://www.web-dousoukai.com/rits-lalumni/>

**ログインID** 学生証番号/会員番号 ※1

**パスワード** 生年月日(YYYYMMDD形式で入力) ※2



※1 会員番号は本紙郵送時の封筒に記載されている番号です。(Sで始まる番号、または16で始まる番号) ※2 西暦年4桁+月2桁(1月の場合「01」)+日(1日の場合「01」)の8桁

LETTERS  
College of Letters

Vol.16 2024



EVENT/  
2024年度文学部  
校友会懇親会  
11月24日開催予定!  
くわしくは3ページへ

写真:2023年度総会・懇親会にて撮影(ホテルオークラ京都・翠雲)

会長ご挨拶

立命館大学文学部校友会 会長 池坊 専好



今年の春はこのほか多くの観光客で京都の町が賑わっていました。たくさんの方々が行き交う姿を見ると、人の交流やつながりが大きな活力を生むことをあらためて確認します。大学でも海外研修や留学生たちとの関わりが活発になり、立命館大学のエネルギーがさらに大きくなっていくことなのでしょう。

いつも立命館大学文学部校友会にあたたかい応援、そしてご協力を頂戴し感謝しています。昨年の懇親会では、本郷真紹名誉教授に「僧侶が護持した京都の神社」というテーマで熱くご講演いただきました。また、立命館大学交響楽団の演奏を参加者の方々には楽しまれ、和やかなひと時となりました。小さなお子さま連れの方もおられました。今後も皆さまのご意見・ご感想を頂戴しながら、できるだけ多くの方々に参加しやすく楽しんでいただける企画や工夫をしていきたいと思っています。

2023年度も立命館の在校生の多岐にわたる活躍を報道などで知り嬉しく思うことが多くありました。例えば、文学部3年の本間聖康さんは、関孝和先生顕彰全日本珠算競技大会の読み上げ暗算で優勝し、新聞に大きく掲載されていました。それぞれの得意とする分野で輝いている学生たち、そして校友の皆さまのお姿にふれるたび元気をいただいています。

さて、立命館は近代日本を代表する政治家であり国際人でもあった学祖西園寺公望が20歳の若さで創設したといわれる私塾がはじまりです。西園寺公望の思いを受け継ぐ私たちで、21世紀のグローバルリーダー育成を目的とし、その名を冠した「立命館西園寺塾」が社会人を対象に開講され、今年で10周年を迎えました。西園寺塾の理念のひとつとして「天命を立つための場、天から与えられた本分を全うする生き方の探究」と掲げられているように、在学中はもとより社会人になってからも何らかのきっかけで立命館と縁を結び学び続けようとする方々の情熱と努力に胸が熱くなります。

そして、このように立命館の理念が浸透し指針が共有され、それぞれが動く力の一助となっている様子を心強く感じています。建学の精神は、時代や過ぎたキャンパスは違えども心に持ち続け、卒業生皆が分かち合えるものです。これからも激動の時代だからこそ、この建学の精神を軸にすえて前進し未来を創る一助になりたいものです。

そして、このように立命館の理念が浸透し指針が共有され、それぞれが動く力の一助となっている様子を心強く感じています。建学の精神は、時代や過ぎたキャンパスは違えども心に持ち続け、卒業生皆が分かち合えるものです。これからも激動の時代だからこそ、この建学の精神を軸にすえて前進し未来を創る一助になりたいものです。

- 2012年 文学研究科 人文学専攻博士課程前期課程 日本史学専修修了
- 華道家元池坊 次期家元

立命館大学校友会の方針変更に伴い、今号よりこれまでのように『りつめい』(夏季号)に同封してLETTERSを郵送することができなくなりました。本年度は引き続き皆様に郵送しますが、郵送料との関係から、次年度以降は原則としてWEB掲載とし、個別郵送は行わない予定です。ご了承の程よろしくお願いたします。



立命館大学文学部校友会会報 2024年 第16号

2024年7月発行 立命館大学文学部校友会 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

☎ 075-465-8187

🌐 <http://www.ritsume.ac.jp/ltalumni/>

📘 Facebook もご覧下さい。

立命館大学  
文学部校友会  
ホームページ



## 学部長ご挨拶

立命館大学文学部長 <sup>えんとう ひでき</sup> 遠藤 英樹



立命館大学文学部校友の皆さまには、日頃より学部へのご支援・ご協力を賜っております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。おかげさまでもちまして、2023年度には合計967名の新たな校友会会員を迎えることができました。

ご承知のように、昨年2023年1月20日(金)に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けを見直す方針となり、5月8日(月)から感染症法上の5類感染症に位置づけられることになりました。そうして現在では、非常に多くの観光客が国内外から京都市内を再び訪れるようになっています。あまりにも観光客が多いために、学生たちが通学のためのバスに乗れないといったことも珍しくありません。

こうした政府方針とともに、立命館大学でも昨年度に、BCP (Business Continuity Planning:事業継続計画)の運用が停止されるにいたりました。授業は対面授業となり、キャンパスにも、かつてのような賑わいが戻っているように思います。ただ社会においては、感染症だけではなく、災害や戦争をはじめ、心をいためる様々な出来事・災害・事件・事故がいまも起こっています。2024年1月1日16時10分に起こった能登半島地震もそうです。この災害では、校友の皆さま、そして学生や教職員の中には、ご家族、ご本人、ご友人が被災さ

れ、大変にご苦労されておられるという方もおられると存じます。それらの方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

このように、私たちの社会は多くの諸課題や困難に直面していると言えます。立命館大学は、こうした社会の諸課題や困難を解明し、それらを解決する方途を探り、新しい未来をみずからの意志でたぐりよせていくこと(futurize)が可能な人間を育成できるよう、チャレンジデザインR2030という中長期計画を策定し、「次世代研究大学」を目指し始めています。私たちは既存の「常識」を疑い、柔軟な思考で物事を考え、新しい「社会の希望」すなわち「社会共生価値」を創出していかなくてはなりません。

文学部における人文科学の学びと研究は、そこにこそ重要性を発揮すると言えます。そのような文学部の力は、校友の皆さまが支えてきてくださったおかげです。これまでの文学部、文学研究科の発展は、校友の皆さまの支えがなければ決してかなわなかったものです。改めて感謝申し上げますとともに、今後も共に学び、成長する文学部に対しての変わらぬご支援をお願い申し上げます。

### 2023年度 文学部ゼミナール大会 文学部校友会会長賞 受賞者コメント

## ファンタジーの「本質」を探る

英語圏文化研究ゼミ Eℓf

この度は、2023年度文学部ゼミナール大会において、文学部校友会会長賞を頂き、大変光栄に感じております。私たち英語圏文化研究ゼミ「Eℓf」は、2022年度から「ファンタジーと文学」をテーマに研究を続けてきました。古今東西、ファンタジーは私たちの身の周りにあるものですが、それは多くの場合「子どもの読みもの」としての存在であり、研究対象とみなされない傾向にあります。しかし、私たちは、ファンタジーの虚構性にこそ、むしろ現実(真実)が描出されているのではないかと考え、『ナルニア国物語』と『ライラの冒険』の作品分析を行いました。

大会では、先生方や院生の先輩方から多くのアドバイスを頂き、私たちの研究を更に進化させる貴重な機会になりました。また、予選会を含めて、自身の所属していない学域・専攻のレベルの高い発表を聴くことで、新たな視点を取り入れる良いきっかけになりました。

Eℓfは、学年や専攻を越えて活動する自主ゼミとして発足し、2年連続での出場となりました。今後も躍進を続け、次の代になっても皆さんにこの場でご挨拶をさせていただくことになると思いますので、楽しみにしておいていただけると幸いです。

書き手 遠藤 明日香



吉村 京花(当時4回生、英語圏文化専攻) 上田 真白(当時4回生、英語圏文化専攻)  
師田 彩花(当時3回生、英語圏文化専攻) 遠藤 明日香(当時2回生、国際英語専攻)

# 2024年度 文学部校友会 懇親会のご案内

時 2024年11月24日(日)  
11:30~14:30(10:30~受付開始)

所 ホテルオークラ京都(翠雲の間)  
〒604-8558 京都市中京区河原町御池 TEL.075-211-5111  
地下鉄東西線「京都市役所前駅」直結

講演会(60分程度)

演題

## 「デジタル・ヒューマニティーズ」と文学部

あか まりょう  
赤間 亮 教授  
(日本史研究学域・日本文学専攻)

赤間亮教授

文学部日本文学専攻に所属し、視覚資料による日本文化研究をテーマとする。絵巻や絵本、浮世絵から写真、演劇、伝統芸能、マンガ、アニメ、ゲームなどに代表される日本人の優れた視覚型表現に注目し、それらの文化資源のデジタル化による情報分析から歴史事象の解明に切り込む。近著に『共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ』(勉誠社、2023年刊行)がある。



寄席(30分程度)

## 出張立命寄席

立命館大学落語研究会

立命館大学落語研究会

落語や下座、漫才、コント、大喜利などを主な活動とする学芸総部公認団体。年に複数回開催される定期公演では、舞台設営から出囃子、演出、音響まで全てを自分たちで手掛ける。学生落語で最大規模の大会「策伝大賞」への挑戦、他大学との合同寄席、学園祭、地域の人々からの主演依頼にこたえるなど、精力的に活躍している。



23年度に引き続き立命館大学交響楽団も出演します!

参加対象

文学部校友会員<sup>\*</sup>・文学部卒業生

<sup>\*</sup>立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください(詳細は会報P.8「入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)」をご覧ください)。

定員 会場定員150名(応募者多数の場合は先着順となります)

参加費

文学部校友会員 2,000円  
非会員(入会いただいていない方・同伴の方) 3,000円

無料招待枠

2023年度卒業生(2023年9月~2024年3月卒)、  
卒業後10年(2014年度:2014年9月~2015年3月卒)、  
卒業後50年(1974[昭和49]年)の  
文学部校友会員の方は無料でご招待いたします。

※託児サービス(キッズスクウェア)利用可能 開催時間分の50%の料金を補助します ※食品のアレルギーがあれば参加申込の際にご記載ください。

懇親会に参加をご希望の方は以下のどちらかの方法でお申込み下さい

Web申込

立命館大学文学部校友会HP▶「イベント」▶「懇親会参加申込」(<https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/italumni/events/>)からお申し込みください。

ハガキ申込

校友会報「LETTERS(Vol.16)」内の折込みハガキに必要事項をご記入の上お申し込み下さい(切手不要)。



申込期限

2024年10月25日(金)  
〈必着〉

最新情報は文学部校友会のホームページやFacebookでご案内させていただきます。

【お問合せ先】立命館大学文学部校友会事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8187 FAX:075-465-8188  
E-Mail:italumni@st.ritsumei.ac.jp HP:<http://www.ritsumei.ac.jp/italumni/>

伝言板

第49回英米文学同窓会

【日時】2024年11月24日(日)、15:00受付開始、15:30~17:00総会・懇親会

【場所】ホテルオークラ京都

※詳細は8月頃に発行予定の英米文学同窓会会報をご覧ください。

2024年度地理学・地域観光学同窓会イベント

【日時】2024年11月30日(土)、10:30~12:00頃

河島一仁先生ミニ巡検(衣笠界限)他イベント開催予定(衣笠キャンパス内)

※詳細は同窓会だより、地理学・地域観光学同窓会webにて。

## 2023年度活動報告

時

2023年11月19日(日) 11時半～15時

所

ホテルオークラ京都(翠雲の間)

2023年度は、ホテルオークラ京都を会場にして、総会・懇親会が開催されました。総会では、常任幹事の高儀智和より予算算や役員体制などについての報告が行われ、満場一致の承認となりました。また、懇親会では、日本史学専攻の名誉教授である本郷真紹先生による講演会や、立命館大学交響楽団によるミニコンサートが実施されました。大変な盛会となり、140名以上の校友が世代を越えて参加し、親睦・交流を深めました。



### 講演会 /

#### 本郷真紹「僧侶が護持した京都の神社」

23年度は本郷真紹先生を招聘し、「僧侶が護持した京都の神社」と題した講演会を実施しました。私たちの身近なところにある、特に京都の神社仏閣などの由来や、古代から近現代への歴史の変遷などについて、日本史に不慣れな校友にも分かりやすく、そして情熱的に解説をしていただきました。校友からは、「久々に現役生の頃に戻ったような感覚を味わうことができた濃密な60分間でした」、などの喜びの声があがっていました。



### ミニコンサート /

#### 立命館大学交響楽団による四重奏

23年度からは、文学部教員や外部ゲストのみならず、現役の立命館在校生による活躍を伝えたいという趣旨から、立命館大学交響楽団による四重奏を企画しました。地域に根差しつつ「国内最高水準のオーケストラ」を目指すという理念に違わず、そのハイレベルな演奏技術は多くの校友を魅了しました。アンケートの結果も大変好評で、「ほほすべての校友が強い満足感を得ると同時に、「もっと聴きたかった」という声も数多く寄せられました。



コロナ禍で中止されていた抽選会も再開されました。本郷先生より立命館出身のプロ野球選手グッズなど数多くの御寄付をいただきました。若い世代の参加者も増加傾向にあり、2、30代の参加者が30名以上を数えました。また、文学部教員の参加者が増加したことで、校友から喜びの声が聞かれました。文学部校友会は、文学部と卒業生を繋ぐ架け橋となるよう、今後も企画運営に邁進して参ります。

# 文学部校友の「いま」



## 未来を照らす光に

突然訪れたコロナ禍は、私から希望や夢を全て奪い去ったように見えました。大学が閉鎖され、暗い自室でただ生きるための生活をした、あの春のことを私は忘れられません。

しかし、真っ暗闇の中だからこそ見えた大切な小さな光の数々を、私は決して忘れたくありません。人と人との繋がりの大切さが、温かい言葉と心のやり取りが、久々のキャンパスでの「おはよう」の声、今でも私の思い出の中で宝石のように輝き続けています。励まし合い、新たな楽しみや趣味、夢を語りあった友と迎えた卒業式。3年ぶりに見た「素顔」の同級生は、皆幸せと誇りに満ちていました。

私は、真っ暗だった私の日々を光をくれた人たちに、関西という地域に、恩返しをし続けたいと思うようになりました。この大学生活だったからこそ抱けた夢でした。

関西電力グループで働いて、早一年が経ちました。配属初日から副社長のいる会議に呼ばれて発言を求められたり、経験豊富な技術系の精鋭が集められた新組織の唯一の事務系新入社員として将来戦略検討に携わったりと、目が回るような一年でしたが、この成長環境を楽しめています。この世代は、ちょっとのことではへこたれませんからね。

私の所属するフロンティアラボは、未来を描く組織です。光を届け続けることは、単に照明を点けることではないと、私は知っています。恩返しの気持ちを込めた仕事で、未来の関西の街に寄り添い、そこに住む人々の心をも灯す光になりたい。私の「光」返しの日々は、まだ始まったばかりです。



こうたり はやと  
神足 颯人

関西電力(関西電力送配電 出向)  
フロンティアラボ 調査・構想担務 所属  
国際コミュニケーション専攻  
2023年3月卒業

## 新しい場所でも、文学部の精神と学びを大切に

私は2013年に心理学専攻を卒業し、修士課程、博士課程で「取調べをはじめとする刑事司法に関する心理学的研究」を行い、現在、立命館グローバル・イノベーション研究機構で研究員として従事しています。現在は主にChatGPTなどの大規模言語モデルが、女性のキャリア決定についてのインタビュー調査において貢献できないか、日々研究を行っています。

女性の社会進出が推進される今日ですが、一方で出産や育児は個人や夫婦のキャリア選択に大きな影響を与えるイベントの一つとなっています。そして現状、看護師のような女性比率が高く、専門性も流動性も高い職業であっても育児や出産により想定していたキャリアを断念せざるを得ない状況があります。その際に社会として悩む個人にできる支援や制度について検討するとともに、AI技術により客観的に相談を行う支援方法を提供できるかを探っています。また、同時に人間とAIの違いを探ることで、人間への理解をより深めることができると考えています。

心理学専攻は2016年から総合心理学部となり、大阪いばらきキャンパスへ移動しました。文学部の専攻時代と比べると心理学に特化した教育が行われています。一方で、研究を行う上では、心理学の知識だけでなく、言語学や地理学、歴史学など学部時代に教養として学んだ知識も関連することがあります。ただ興味で受講した講義も少なくありませんでしたが、決して無駄ではなかったと感じています。現在は大阪いばらきキャンパスにあり、衣笠キャンパスのようなイチョウ並木やキャンパスの桜がないことを寂しく思いつつ、これからも文学部で培った様々な学問の見方を忘れずに、人について探求し続けようと思います。



なかた ゆうき  
中田 友貴

立命館グローバルイノベーション研究機構  
専門研究員  
心理学専攻  
2013年3月卒業

# 『出土文献から見る中国古代の兵学思想』

**私**の専門分野は、中国古代思想で、銀雀山漢墓竹簡を中心とした先秦～漢代の兵書について研究しています。銀雀山漢墓竹簡は、1972年に中国山東省臨沂で発掘されたもので、2000年以上も前に書かれたものです。中国では、19世紀末からこのような古い資料が多く出土し、以前に考えられていたよりも制度・技術が早くから発達し、思想や学術の伝播も多様であったことがわかってきています。中国の出土文献は、形は変わっているとはいえ漢字で書かれたものなので、他の言語・文字で書かれた資料に比べると、釈文の公開が早いというメリットがあります。長い間知られていなかった文献を解説してゆくのは、難しいながらも面白い作業です。

……………

私が研究してきた古代兵書で有名なものに『孫子』があります。現存する中国最古の兵

書とされ春秋時代末期(紀元前5世紀)頃の思想を反映しているものですが、最高の兵法といわれます。『孫子』には、具体的な陣形や戦い方等が書かれているわけではありません。正確な情報を得て敵味方の現状を分析し、必ず勝てる状況でなければ戦わない、徹底的に自軍の情報を隠蔽して漏らさない等、時代が変わっても通じる用兵の真髓がまとめられています。同時に、『孫子』を読むと、多くの戦争を経験してその弊害・愚かさをよく知っている人が書いたものだということがよくわかります。冷徹な戦略戦術の心得を述べながら、戦乱の続く世に於いて敢えて実戦をしないことを第一とし、“一時の感情は収められるが滅んだ国は元には戻らないし、死んだ人は生き返らない”と開戦には慎重であるべきだと戒めています。

……………

銀雀山漢墓竹簡には、『孫子』に加えて、そ

の後に書かれたと思われる兵書も複数含まれていますが、それらを読んでいくと、過去の失敗から学ぼうとする当時の人々の姿勢と、社会情勢の変化に応じて求められる兵法も変わっていったことがわかります。遠い昔のことですが、諸国が鎬を削る春秋・戦国時代の変遷は現代の世界情勢にも通じる場所があり、思想の変化にも似たものを見出すことができます。そういう意味で、中国古典を研究することは現代を考えることにもつながっていると思います。

……………

ここ数年は、中国古代思想のほか、故郷である愛知県三河地方で明治から大正・昭和初期に詠まれた漢詩を収集しています。漢詩を通じて様々な地方・職業を超えて交流がなされていたことや、激動の時代で一般の人々が何を考え、感じていたのかが詩から見て取れることに魅力を感じます。今は当時の雑誌や新聞に掲載された作品を収集し作者の情報について調査するのみで、詩そのものの解釈にまでは及んでいませんが、将来的には三河地方で詠まれた漢詩をできるだけ聚めて出版し、後世に伝えていきたいと考えています。



銀雀山漢墓竹簡『孫子』のレプリカ(筆者所蔵)



漢詩が掲載されている明治時代の雑誌(筆者所蔵)

“二千年以上前の竹簡にも  
近代の詩にも  
“生きた人間”が感じられる”

### PROFILE

立命館大学文学研究科博士後期課程(東洋文学思想専攻)修了(博士[文学])。2012年に立命館大学准教授、2017年より現職。中国で出土した文献史料を用いて古代中国の兵学思想の変遷や特徴を明らかにする。近著に『銀雀山漢墓竹簡(貳) 論政論兵之類 譯注』(朋友書店、2021年)がある。石井先生の写真に写っているマスコット、「てこちゃん」は中国文学・思想専攻サイトのイメージキャラクターである。

# 私の学生時代 No.002

## 二転三転したゼミ所属

1982年4月に他大学から日本文学専攻に3回生編入して来た私(その時25歳)は、入学前から近代文学、とくに夏目漱石の文学を研究しようと考えていた。ところが入学してすぐ文学部事務室でゼミについて尋ねたところ、希望されている近代分野はすでに満杯で入ることができない。そのため他の分野のゼミに入ってもらうことになる。しかも空いているゼミは、古代(上代)文学のゼミのみだとの説明を受けた。

下宿に帰って、その夜はショックで寝られなかったことを今も記憶している。選択の余地がないため3回生は古代文学のゼミに所属し、松前健教授のもと『古事記』及び『日本書紀』の記紀歌謡を分析、考察することとなった。フィールドワークで奈良の西大寺等に出掛けたり、先生のご自宅に招いて戴いて、すき焼き鍋をご馳走になったりした。はじめは友達もなく、専門も希望していた時代と懸隔しており、不安要素が多かったが、結果としてとても充実した1年間を過ごすことができた。とくに神話学や文芸理論などを外国論文(Northrop Fryeの著書等)も含めて読解する機会を与えられたことは、文芸の源泉を識るうえで私の文芸研究の礎となった。

翌年4回生となった私は、念願の近代文学のゼミに入ることができた。初回講義の折、先生が入室するのを待っていたところ面識のない先生が入って来られた。先生は、まずこのゼミを担当することになった経緯を説明してくださいました。その時、私はゼミ選択の冊子に記されていた先生の下で漱石文学の勉強ができると思い込んでいた



ため、少し複雑な心境で聞いていた。実は立命館大学に入学する前からその先生の漱石論を読み、憧れていたからだった。新人の先生は、自己紹介に続いて、ゼミ運営について丁寧に説明してくれた。黒板に作家と作品の一覧を書き、この中から選択するように私たちゼミ生に告げた。すぐにその黒板に書かれた作家・作品一覧の中に夏目漱石がないことに気づいた。やっと近代のゼミに入ることができたのに、漱石研究ができないことに、またショックを受けた。私は納得が行かず質問をした。その時先生は、漱石が好きではないから外したと仰った。そのうえ早い者勝ちだと先生は言われ、みんな急いで黒板に駆け寄り行ったのだった。私は、悲嘆に暮れている間はなく、森鷗外の『雁』と言う作品を選択した。私はこの作品が好きで、読了後カメラを携えて、青春18きっぷで東京に行き、舞台となった本郷、千駄木、上野界隈を撮影したのを今も憶えている。好きな作品は他にもあったが、この作品は気になっていた作品だった。なぜ「好き」なのか、作品の魅力を友達に上手く説得力を持つ形で説明できない自分がいたからだった。

上記の如く私の4回生ゼミは始まり、森鷗外の小説『雁』で卒業論文を書き上げた。未熟な論文だったが、主人公岡田の散歩経路に着目した点と「情緒」と言う言葉の意味を作品に当て嵌めて解明した点を評価してくださいました。添付した舞台となった写真も賞めてくださいました。その時ゼミで指導を受け、私を研究者として育ててくれた恩師こそ、上田博先生(着任当時は助教授)である。そして、私は現在も森鷗外文学の研究を続けている。

人は、出逢いを通して成長して行くものだと考えている。偶然の出逢いから必然的な関係となって行く過程が物語となる。個人個人の物語が紡ぎ出される、それを人生と言うのかも知れない。

## 大学院で学問を探究してみませんか?

立命館大学文学研究科では、幅広い年代の方が大学院生として学んでいます。文学部を卒業された皆さん、学部での学びを深める形で、大学院で学問を探究してみませんか?

文学部研究科では2024年度より新しいコース・専修・カリキュラムがスタートしています。博士課程前期課程では、様々な目的を持つ人を受け入れるため、社会との繋がりを視野に人文学(および情報人文学)を多様に学ぶ「高度探究コース」と、研究者を目指す「研究一貫コース」の2コース体制となっています。

11月から「大学院ウィーク」や「大学院進学説明会」などのイベントを開催し、文学研究科の紹介や入試対策、そして文学研究科の教員や現役院生に直接相談できる場などを提供していく予定です。イベントの詳細や申し込み方法などは、「立命館大学大学院 入試情報サイト」に掲載する予定です。ぜひご覧ください!



立命館大学大学院入試情報サイト  
<http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>



立命館大学文学研究科ホームページ  
<http://www.ritsumei.ac.jp/gslr/>